

2009 年度 活動計画

2009 年度 活動方針

活動：国際協力 NGO への参加・協力を段階に分けて捉え、2009 年度は下記 3 つの達成に向けて活動します。

(1) 国際協力や NGO に興味はあるが、実際の参加には結びついていない層に向けて：加盟団体との合同キャンペーンを通じた NGO 活動への身近な参加方法を発信します。

(2) 具体的な参加・協力を模索する層に向けて：相談、問い合わせ対応を通じた加盟団体の活動とのマッチングを行います。

(3) すでに活動を始めている層に向けて：実践を通じた担い手育成・能力強化を行います。

組織：活動の基盤となる自己資金の拡大とガバナンスの整備に取り組みます。

(1) 人や組織のネットワークという強みを活用した自己資金の拡大活動の支援者・協力者となる賛助会員（団体・個人）を増やします。

それぞれの事業について、管理費までカバーできる協賛または助成の獲得を目指します。

加盟団体関係者やボランティア・インターンが主体的に関われる新規寄付プログラムを開発します。

(2) 常にミッションや中期計画を確認する一貫性、透明性の高い意思決定

(3) 認定 NPO 法人格取得を旨とした財務・税務の整備

1. ネットワーク

2009 年度方針：NGO 間のネットワークを充実させ、また他セクターとのネットワークづくりも行います。

ネットワーク・ミーティング（合宿）

ネットワーク・ミーティングは、当会の会員が集まる交流の場です。例年、年 4 回程度開催していましたが、遠方からは参加が難しいとの指摘もありました。そこで、今年度は 1 回のみ開催とする代わりに、遠方の団体もじっくりと参加できるよう合宿形式とします。なお、今回は NGO だけでなく、他セクターの関係者もお呼びし、双方にとって有意義な場となるようなテーマを設定します。

合同ネットショップの開発

関西 NGO 協議会の情報発信力の強化と、加盟団体への広報協力を行うことを目的とした、加盟団体が販売しているフェアトレードグッズなどを一覧できる「合同ネットショップ」の開発を検討するための調査を行います。

2. 開発教育・啓発

2009 年度方針：
キャンペーンを
中心に、より多く
の人々に世界的
な課題を知らせ
るとともに、国際
協力や NGO への
参加方法を発信
していきます。

キャンペーン

日本社会のさまざまな問題が顕在化する中で、地球規模の問題どころか他人のことにかまう余裕すらない内向きな風潮が高まっています。しかし、個々の問題を解決して共生社会を実現するには、一人ひとりが他人や社会に関心を持ち、行動すること＝「参加」が不可欠です。そこで、「参加型開発」「参加型教育」の経験を持つ NGO が合同で、NGO を通じて社会問題の解決に参加する人を増やすためのキャンペーンを実施します。

関西地域の企業や商店・諸組織の協力を得て、1 人でも多くの人々が「関わる、参加する」という経験を積めるよう、気軽な参加メニュー作成と広報を行う予定です。

講師派遣、講師紹介

昨年度に引き続き、加盟団体、個人会員の協力を得て、国際協力の現状をワークショップや映像を取り入れて行う大学での講義を実施します。2009 年度は既存の講義に加え、新規プログラムとしてパナソニック株式会社・龍谷大学との共催で一般市民向けの講座を開催します。そのほか、随時依頼のある講義、講演に対応します。

広報、情報発信

国際協力や NGO 活動への「入り口」となるべく、ネットワーク NGO である関西 NGO 協議会が情報発信を行うことは重要な役割です。ウェブサイトや会員用メールマガジンへのそれぞれのメディアのニーズに合った情報の発信を行います。

DVD「私たちの暮らしと世界のつながり」頒布

世界で起こっている環境・貧困問題と私たちの生活のつながりを知る第一歩として、今年度も DVD「私たちの暮らしと世界のつながり」を頒布します。

2009 年度は、ボランティアを中心としたチームを結成し、販路の拡大やさまざまなイベントとの協働を提案し、頒布していきます。

写真パネル貸し出し

国際協力や加盟団体の活動を広く発信するために、加盟団体がそれぞれの活動地で撮影した写真パネルの貸し出しを行います。2009 年度は、ボランティアを中心としたチームを結成し、イベントスペースの開拓や、他イベントとの協働の提案など、貸し出しに向けた企画を提案していきます。

3. 政策提言

2009 年度方針：様々なツールを使って、ODA に関する情報提供を行い、市民参加の裾野を広げます。

NGO と ODA 関連機関との対話のコーディネイト、参加：NGO-外務省定期協議（ODA 政策協議会、連携推進委員会、全体会） NGO-JICA 協議会

NGO は、外務省や JICA と定期的に話し合いを行っており、そこに参加しています。ODA 政策について話し合う ODA 政策協議会では、事務局として議題や参加者の募集といったコーディネイトも担当しています。これらの定期協議から得た情報を会員にわかりやすく報告します。また、事務局を担当している ODA 政策協議会については、将来的に他の団体が事務局を担うことも視野に入れ、運営費の確保に努め、業務マニュアルの作成などの準備を行います。

ODA に関する情報提供、啓発

「ODA ナビ (<http://www.odanavi.net/>)」は、ODA に関心を持ち情報を求めている人に ODA に関する様々な情報を提供するポータルサイトです。ODA セミナー冊子は、昨年度実施した ODA 政策提言担い手育成セミナー「変えよう ニッポンの国際協力～ODA への政策提言入門講座」をつぶさに紹介した報告書です。どちらも、関西 NGO 協議会の政策提言活動をわかりやすく伝えるツールとして活用し、多くの人に日本の ODA や NGO の行う政策提言活動を知らせていきます。

その他時宜に応じた活動

今年度は ODA 中期政策の改定に向けた準備がおこなわれる見込みです。改定プロセスに適切な市民参加が行われるよう提言していきます。そのほか、必要に応じて意見書の作成・発信します。

4. 国際協力・NGO に関する相談

2009 年度方針：相談、問い合わせ対応の質・量をより充実させていきます。

相談、問い合わせ対応

（受託：外務省委嘱「平成 21（2009）年度 NGO 相談員」）

国際協力や NGO に関心を持つ市民や NGO からの問い合わせや照会に対応しています。市民の方からのご相談に対しては、国際協力全般への正しい理解・認知から、実際の活動への参加・支援へとつなげていきます。NGO からの相談に対しては、じっくりコンサルティングを行い、各団体の能力強化につなげます。また、今年度から、スタッフ間で相談内容を共有し、相談対応の質をさらに充実させることを目的として毎月ケース検討会を実施する予定です。

5. 担い手育成

2009 年度方針：
具体的な取り組みや事業を通しての担い手育成を行います。

実践的参加型コミュニティ開発研修コース

(受託：JICA 大阪)

過去 11 年間実施し、参加者から高い評価を得ている研修コースです。2009 年度は東ティモール、パプアニューギニア、ケニア、ブータン、アルゼンチン、エクアドルから NGO や地方自治体のスタッフが研修生として参加する予定です(実施期間：8 月 11 日～9 月 25 日)。週末のセッションを設けるなどして日本の NGO/NPO スタッフが参加しやすくし、相互に学びあえる機会をつくっていきます。

セーフ・トラベル・セミナー

(共催：株式会社マイチケット、早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター)

毎年数多く実施される NGO や大学の海外スタディツアーでは、その目的地と感染症発生地域が重なることも珍しいことではありません。感染症対策は、NGO や大学にとって避けて通れない、待ったなしの課題です。過去 3 回のセミナーでは、参加 NGO・大学のニーズが高かった狂犬病、マラリア、デング熱、虫刺されを取り上げました。また、旅行業法や旅行保険についても取り上げました。

地域別情報交換会や経験交流会などの情報交換の機会を設け、各団体がよりよいツアーを行えるようサポートしていきます。

インターン・ボランティア受け入れ

インターン・ボランティア活動は、関西 NGO 協議会の各事業をより充実し、同時に新たな視点を導入するために必要不可欠です。また、NGO 活動の担い手育成という視点からも重要と考えます。2009 年度は、キャンペーンなどの事業の企画・運営に関わってもらい、ボランティア・チームをつくって活動をすすめるなど、インターン・ボランティアのアイデアを活かし、かつ主体的な活動を促進できる環境づくりに努めます。

第 23 期関西 NGO 大学

市民による国際協力活動の主体は一人ひとりにあるとの認識のもと、地球市民として取り組むスタイルや担うべき課題は多種多様に存在することに気づき、その中において各自が果たすべき役割について考え、判断できる人材の育成を目的として開催します。